

じとせんひろば



No. 45
発行 H9.7.1
地 御 前 地 区
コミュニティ推進協議会

コ推協発足20周年記念特集号第2集

— コ推協の年表を作成しました。資料としてご利用下さい。 — No.45—H09

二十一年のあゆみを振り返ってみますと、協議会が発足した年、地御前漁協青年部水産部門（カキ養殖）が、最高の名誉である天皇賞を受賞されました。また、人口は三五、三二一人（四月一日）で、当初予算は三三億一二六万四〇〇〇円でした。この数字から二十年の月日が感じられます。

歩み始められた貴会は、公民館を中心に、地域が連帯できる様々

地御前地区コミュニティ推進協議会が二十周年を迎えられ、記念特集号が発行されますことを、心からお祝い申し上げます。

昭和五十二年六月、地御前地区に福祉のまちづくりを目指して、コミュニティ推進協議会が発足して以来、このように目ざましい発展と親睦の和を高められ、福祉の精神を培われ心の通う地御前に育てあげられていますことは、皆様のたゆまないご努力によるものであり、深甚なる敬意を表すものでございます。

地御前地区コミュニティ推進協議会が二十周年を迎えられ、記念特集号が発行されますことを、心からお祝い申し上げます。

廿日市市長 山下 三郎

お祝いのことば



市民合唱団による「ハレルヤ」の大合唱(H9.4)

な活動を推進され、青年団活動も復活し、青年団の手でコミュニティ集会所（青年会館）が建設されました。この施設は、当市の地区集会所の先駆けとなりました。この長い年月の間には幾多の問題に直面されたと思いますが、先輩諸氏の意志を着実に継承され、ますます、地域連帯の輪を広げられ、住み良い人間性豊かなふるさとづくりを進めておられますことは、皆様にとって大きな誇りとなり、地域の愛着を一層深められる活動となっていると確信いたしております。

廿日市市も時代の流れと共に社会の要請が変化化する中で、昭和六十三年四月には市制を施行し、本年四月には人口七二、九〇一人となり、当初予算は二十年前の六倍以上の二〇一億五五二六万円と大きく増加しました。

折しも本年は、待望の文化センター（大小ホール、図書館、美術ギャラリー）と庁舎が、皆様のご理解とご協力により落成することができました。これを機に、コミュニティ文化と地域文化の向上を推進するために、「文化創造」の年と位置付け、「誇りと愛着がもてるまちづくり」への推進を図っております。住みよいまちづくりのために、今まで通りご協力の程お願い申し上げます。

終わりに、二十年もの長い年月の間に培われた、地域の人々の心の連帯を大事にされ、すばらしい活動の実績を礎として、二十一世紀に向けて皆様の創意のもと、地御前地区コミュニティ推進協議会がますます発展するとともに、会長はじめ役員及び地域の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

提言三件

渡邊 通

広域地御前の発展のための「じとせんひろば」紙が、発行以来二十一年に達した由、愈々、その使命の發揮されることを期待する。このためには――

先ず第一は、地御前全体が発足したが、開発が進み、地御前、阿品、阿品台の三地区に分かれた。これらの地区と提携を続けることは大事で、地御前は、過去の経験の提供を惜しむな。

次は、最近の地名の混乱の兆しである。先進地、平良谷の地名の変化を回顧すると、三世紀からの水田開発、一つ火の発生、漢文字の普及政策と当時の地域性などで、地名が混乱を極めた先例がある。地御前でも最近の急開発で、団地名に「似而非西洋語」を採用、宣伝している例が「散らし広告」にある。地名は長く残る公器である。当局の慎重審議を経て、公認せられたい。

最後は匿名記事の回避である。本紙最近号を見ると。極端に匿名記事が増えている。匿名の使用は読者には無責任な記事だと思われる。

当然の事かも知れないがと自問自答している。

地御前コミュニティが、県下で先駆地として選ばれて二十年を経過した。その間紆余曲折の中で、集まる字ぶ結ぶと云う、発足当時の宮沢県知事の言葉の通り、各部の努力で地域住民の触れ合いと和を広げ、伝統的な文化を継承する。更に新しい時代の福祉に取組み、よりよい地域の環境づくりと、将来の地域の担い手となる青少年の育成に取組んで行く。

この基本的な原点に立返って、将来に向かって住民の全体の意識の高揚につとめる事が、肝要な事と思う次第である。

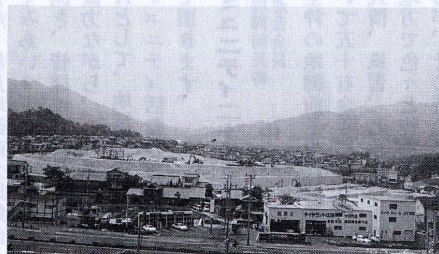
つれづれに

元コ推協副会長 村上弥津子

私はたまたま発足時に婦人会長を務めていた関係上、あて職の形で中川会長（町内会連合会長）小方副会長（老人クラブ会長）と共に副会長となりましたが、当時をふり返ると何も解らないまま、コ推協の基礎作りのための会合の連続で、あっという間に二年間を終えたような気がいたしております。

江草公民館長は平良にお住まい

る。沈思熟考して、堂々と実名入りの記事にして、後世まで、文責を明白にせられたい。



いま 造成工事中の元海軍山

編集後記

地御前が生んだ「まぼろしの洋画家、小林千古」の絵と画集を、新設の美術ギャラリーと図書館で見せていただいた。何とも測り知れない深さを感じた。

一方、新しいものも素晴らしい。「心にサンシャイン 明日にブルー スカイ 出会いの街 廿日市」

訂正 No.43 福祉部柳川練・柳川諫
No.44 K.W 大型人間↓大型人間

コミュニティ二十年の歩み

会長 吉本 武

昭和五十二年四月、広島県社会福祉協議会により、当地御前地区が『地域の福祉づくり実践地区』の指定を受け、地区内各団体の協議を経て、六月五日、地御前地区コミュニティ推進協議会を発足、今年で満二十年の歳月を迎えることとなります。

この間先人諸氏には、次は皆様の温かいご協力により、地域の発展、活性化のために、さまざまな活動を展開され、心のふれあう住みよい町づくりのために努めて参りました。このため発足十周年

新年度役員の紹介

五月総会終了、次の顔ぶれです。	
会 長	吉本 武
副会長	林 扶美夫 一名未定
常任理事	中山 薫 (市議)
	油木 徹 (市議)
理事	事業各部長 (後出)
	各町内会長
	関係団体代表者
	事業各部副部長
顧問	前会長とも六名



地御前神社やぶさめ神事(馬とばし)

余を経た平成四年には、当コミュニティ推進協議会が、県から団体表彰の栄誉を受けました。

時は流れ、時代がうつり、私たちの生活環境が大きく変化している中で、目先のことにとらわれることなく、地域文化を大切に、私たちの親から子へ、子から孫へと、多くのよりよい伝統を残す義務を忘れてはならないと思います。どうか皆様方には、共々によりよい地域づくりのために、ご協力を賜われますよう、よろしくお願い申し上げます。

各部の事業計画とその抱負

文化部

コミュニティ推進協議会は、今年で二十周年を迎えることになり、誠に意義あることと思います。心からお祝い申し上げます。

今年度も、御陵衣祭、やぶさめ、管弦祭、州堀、秋祭りなど歴史のある諸行事や、古くから伝わる盆踊り、とんどなどを実行し盛り上げて行き、子供達と共に、ふるさと作りと合わせて伝承してゆきたいと思っています。

ふれあい祭り、歴史散歩、大人と子どもの集い、ドンクリクラブなど、今後共地域の方々、子ども達と共に進めたいと思います。

部長 北野 正之

体育部

本年度の体育部の事業予定は、例年どりの、①地区民運動会(五月十八日実施済み)②秋のハイキング(十月二十六日倉敷市)③軽スポーツ(つなひき・三月二十二日)のほか、毎月一回のナイトウォーキングを実施いたします。

部長 北川 護

福祉部

図らずも、福祉部長に推薦され更に、二十周年記念特集号に寄稿の依頼があり、光栄と戸惑いを感じながら筆を取りました。

さて福祉部の事業計画は、少子、高齢化が進む中で、健康で心豊かに暮らせる福祉のまちづくりをめざすをテーマとして、ひとり暮らし、寝たきり老人への訪問見舞い及び昼食会等を予定しております。

皆様の御協力を頂きたいと思っております。なお、当地の更なる発展を促進するためにも、地区福祉の推進について、皆さんとともに考えて行きたいと思っています。

部長 相良 宏三

生活部

今年度の行事は、男性料理教室二回、ささえ会支援一回、永福学級交流会二回の予定です。日時は早急に決めたいと思います。

料理教室は、食生活改善委員の皆様のご指導を受け、平成四年から続けており、好評をいただいております。野菜を切ることから始まり、だんだん上手になります。

ささえ会、永福交流会につきましては、講師の先生を迎え、高齢者には参考になる講演があり、またお互いに語り合う楽しいひとときを持っています。何れの行事も皆様多数の参加をお願い致します。

部長 石川 孝幸

青少年部

一、やぶさめ神事(六月九日)終了後の清掃活動

二、管弦祭(七月二十一日)当日のパトロール及び終了後の清掃三、秋祭り行事中(十月十一日、十二日)のパトロール(関係PTA役員及び廿日市警察補導部と協議して行い)

四、子供会健全育成会支援(「まなびメッセ」の講演会等に参加)



盆踊り

広報部

パトロールは非行を防ぐ目的であり、そのほか行事前後には部会を開き情報交換にも努めたい。本年は二十周年を迎え、一層張り切って青少年の育成に努めます。

部長 大倉 功

古い町並みの昼下がり、誰かリールを知らないか、との口笛が流れてきた。戸口で洗い物をする年輩者。学校帰りの子供達の声。ここは厳島神社のおん前の地方で地御前と名づけられたそうである。四月には、市庁舎・文化センターさくらピアのさん新的な建物も完成し、市民の誇りも高まるであろう。中身も伴いたいものである。皆様ご協力のひろば特集号はいかがですか。次回は新春号です。コ推協二十周年記念事業は、更に文化部ほかの協賛を得て、ふるさと展等企画中です。よろしく。

部長 中村 英雄

我がコ推協の特色

前コ推協会長 伏本 節夫

阿品台が建設され、新しい町づくりが必要とされる昭和五十二年、県からコミュニティづくり実践地区の指定を受けた。地御前なりの努力を重ね知事の期待に答えた。平成四年一月、県より表彰を受けその時の披露の言葉の中で、各分野で活躍されたの説明があった。他地区の表彰は、個々の分野で特色ある諸行事を行っていたが。

私達はコ推協は、広報、体育、文化、福祉、生活、青少年の六部に分かれて、コ推協の基本方針に則した、潤いと活力ある地域づくりを推進し、『心のふれあう』場を設け、『助けあうまちづくり』に努力した。

先日、或る人から「地御前に移り住んでよかった」と話され、本当に嬉しかった。

皆さんは、リーダーとして、ボランティア活動されんことを願う。

ふれあいの場

J/A佐伯中央 中田 孝司
地御前支店長

「おはようございます」「こんにちは」と、地域の方々の元気な

声が聞こえる。地御前の玄関口に店舗を構えるJ/A地御前支店です。ふれあいの場として、家庭菜園教室・料理教室・編み物教室などを行ない、皆様にご利用いただいております。

中でも、毎月一回開いております家庭菜園教室は昭和四十九年に始まり、二十三年間続いています。毎月多くの方が参加し、楽しく熱心に学び、J/A主催の野菜品評会にも多くの方が入賞されます。

また、毎月地御前公民館前とJ/Aくみあいマーケット前でも朝市を開き、皆様に喜ばれています。微力ながら、これからも地元の人々として、地域の皆様と一緒に、コミュニティ活動のお手伝いをさせていただきます。

コミュニティ二十年を振り返って
地御前長寿 中谷 満
連合会長

生粋の地御前子でない私も住みついて五十有余年になる。

人情、風習、しきたり等その地方で色々と特色があるものがあるが、その特色こそが土地柄を生み出している。永年住んで地御前の良さが昨今やっとわかった様な気がする。五十余年も住めば、

じとせんひろば

No. 46

発行 H10.1.1

地 御 前 地 区
コミュニティ推進協議会



頌春

皆様のご清福を
お祈りいたします

No. 46 - H10

近隣のありがたさ

前広島県知事

竹下 虎之助

先般の阪神・淡路の大震災は多くの教訓を残した。一言でいえば、日本の都市がいかに天災に弱いかわかることであった。

その中にも学ぶべき教訓があった。神戸市のある研究所が神戸、芦屋、西宮の市民にアンケート調査を行った。「震災直後の消火、救出、治療、看護などで誰の助けを受けたか」という質問に対して、「近隣の人」が四四％、「家庭」三九％、「友人」二三％、「親戚」

二〇％、「ボランティア」一四％の順であった。

その一方で、「自衛隊」が二二％、「消防署」八％、「警察」六％、「市役所」は五％となっていた。まさかの時の助け船は、近隣の人であったことがわかる。また、数日大火が続き、大被害が出たが、長田区真野地区では平素から活発だったコミュニティ活動がものをいい、住民の協力で地元企業の支援で、火災の被災は最小にとどめている。放水の不十分な消防自動車より住民のバケツリレーが役に立ったと言われている。

淡路島の福祉の町、五色町は震源地の隣で、全半壊の建物被害が多かったが、死者はゼロ、奇跡に近いと絶賛されている。夜が明けて「誰々の顔がみえない」「助けよう」と倒れた家で老人の寝ていた部屋を近くの人々が素手で掘おこして助けた。日常のお互いのつきあいの深さと、助けあいが役に立った。独り暮らし、寝た切り、

表彰式に臨んだ

前会長 伏本さんのお話

地御前地区コミュニティの表彰はトップで、六つの分野ともよく活動されたといっています。

竹下さんは、阿品台の土を木材港に運んで団地を造ることや、魚切ダムの水を廿日市に引く等でご尽力され、また、多くの絵画なども市に寄贈されております。

コ推協のねらいは、市民憲章の心ふれあいを大切に、助けあうまちをつくりたい、にある。お互いに知らなければ、助けあえないことを知って頂きたい。



平成4年コミュニティ団体表彰

員が月一回、決められたコースを自分のペースで一時間ぐらい歩いています。

「日常生活の中では歩くことが少ないから、この催しはありがたい」「一人では実行しづらいが、みんなと話をしながら楽しいうちに終わる」「月に一度だけでなく、もっと度々あったらよい」などの声があります。

皆さんも参加されて、日常生活の中で歩くことが習慣になることを願っております。参加希望の方は、公民館だよりをご覧ください。

ふるさと

終の栖・地御前

世田 正光

転勤族で、三十年間離れた地御前に帰ってきた。この間夢に見るのは、小学唱歌「ふるさと」にある通り。おやじやおふくろの顔を見に帰っては、昔遊んだ山が団地や道路に変わってゆくのにびっくりしたが、一方では、中学生の時から泳ぎを覚えた明神さんの「がんばり」や「我々迫池」界限の変わらないのにどれくらいホッと

コ推協部員名簿

本会の構成員は、次の六部のいずれかに所属することになっております。

また、本会の目的に賛同して活動して頂ける方々のご参加をお待ちしております。公民館または各部長にお申し出ください。

文化部

◎北野 正之 ○北川 徳夫
○磯辺 忠利 北野 正喜
勝谷 義昭 谷口 勇
増村 春男 松野 真哉
佐神真佐雄 川本 明
新川 弘 江本富士夫
中井 昭文 長門 照夫
藤本 唯俊 川本 暁
長門 靖宏 高橋 秀樹

福祉部

西本 孝示 菱井 衣枝
佐藤 富信 吉本 武
◎北川 護 ○岡 輝久
◎三好 国昭 友田 健次
勝谷 武夫 朝田 馨
村上弥津子 横山美智子
羽佐田幸子 田岡キヌ子
川口 愛子 柳川 諫
飯田 元隆 重富 欣治
藤岡 照雄

生活部

◎若宮 直巳 ○大原 倭子
◎田島久美子
石川 孝幸 掛本千代美
江盛 正祥 佃 正隆
近藤 憲男 戸川 春義
西川 裕通 船村 孝良

青少年部

◎大倉 巧 ○西田 弘典
梶村南海男 懸 和男
若宮 悟 打海 清治
田島 正樹 岡村 哲典
松本 末人 近藤 速夫

体育部

◎相良 宏三 ○横山 裕幸
◎神本登志江 小方 昌之
佐伯 慎二 中山 正次
市川 武志 石川 明美
井上 勝実 木戸 博美
小林 茂夫 河野 和彦
森 康彦 岩本 一雄

編集後記

先の広報部会で二十周年の写真を整理中、当コ推協が表彰を受けた写真が話題となった。折角、その当時の知事さんがお隣の地におられるのに、新年のメッセージが頂けないかということになり、失礼を顧みずお願いしたところ、快く応じて頂いた。

ご寄稿の皆様有難うございました。お正月を迎えると、成人式、とんど行事も待っています。さあ、みんな元気ががんばりましょう。

前号記事追加と訂正

副会長 佐伯由佳里(未定分)
監事 村上五郎 松本 武
青少年部長 大倉 功 大倉 巧
生活部長 石川孝幸 若宮直巳
年表(佐方コ推協)
会長 橋元 博 橋本 博

広報部

◎中村 英雄 ○奥野 法保
北野 茂 渡辺 和典
板垣 公朝 谷野純一郎
世田 正光 松本 武
(◎部長) (○副部长)

林 扶実夫 白砂 豊
向 佳 岩永 明美
吉村 一彦 若宮 武雄
尾上 隆雄 掛本 茂樹

意識改革

野坂中学校長

平野 幸三

最近、広島県における高校教育改革のことが毎日のように新聞を賑わせています。

よく考えてみますと、至極当然のことなのですが、私たちの頭が古い固定観念にとらわれていて、なにか大変なことにように関係者の間でとりあげられています。

戦後間もないころの教育改革によって生まれた高等学校は、入試制度も含めその教育内容が大きく変わることなく今日まで続いています。高校進学率が五〇％に満たない時代の教育内容・方法が高校全入の今の時代には合わなくなっています。

変わろうとしている主な点は、自分たちで教科が自由に選べるようにしていく方向にしたこと、進学者希望者を全員入学させること、そして地元にある高校にできるだけ入学させる方向性を示したことなどです。とりわけ地元優先という考え方から、高校が中学校を指定して一定の枠というものの、

推薦入学の制度にしたことが最も関心を呼んだ改革です。しかも今までの入試のように学習成績によらない選抜にしたことです。従来の常識を変えなければなりません。

こども相談室と

相談教室

教育相談員 藤本 恭子

旧地御前公民館に、廿日市市こども相談室と廿日市市相談教室があり、地元の皆様には大変お世話になっております。

廿日市市こども相談室は、月曜日から金曜日までの九時から十六時まで、子育てや子どもの教育について悩んだり、不安を感じておられることについてご相談をお受けしております。

来室してご相談いただく方法と電話でご相談いただく方法の二通りがあります。

五名の教育相談員がいますが、相談は無料で、相談内容については秘密を守ります。

廿日市市相談教室には、学校には行けないが、学校とは異なった小規模の環境の中でなら、学習や集団生活をするのできる小・

中学校の児童生徒が通室しています。講師、心理学専攻のボランティア、児童福祉司等、多くの方々の御協力も得て、子どもたちの自立と心の元気を育てようと指導にあっています。

学習にスポーツ、畑作り、更には自転車であちこち巡る等と、地域の方々の温かい目に見守られながら活動させていただいております。どうぞ今後ともよろしくお願いたします。

地御前ハナ事情

広報部

「広報はつかいち」十一月一日号で、ハナのいるまちの特集が行われた。

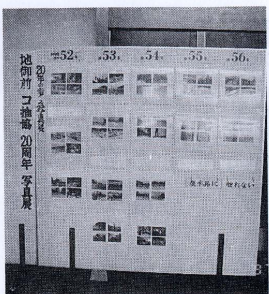
地御前でもハナは衰退しているようなので、実情を取材してみた。本紙S55年No.6に「一町民」の声が載っている。ハナが飛び回り子供達の歓声が路地にこだますると秋祭りの気分が一層高まる。

然し今は、地元住民の心配の種になっている。ハナに追われた子供がつまづいて転んだり、物に衝突したりする風景を見かける。ハナ

コ推協二十年と ふるさとの写真展

コ推協監事 松本 武

コミュニティ発足当時に、これに携われた先人の多くは既に故人になっておられますが、今更ながらその英知に畏敬の念を覚えます。一枚一枚の写真をめくっていくとき、一層その感を深くします。また、これらの写真及び資料を丹念に保存してくださった歴代の公民館職員さんに感謝いたします。



公民館における写真展

二十年の歩みの写真を見ていくと、コミュニティを発足させるに当たって先人たちは、まず地区住民のニーズ調査を行った。そして他地区の実例や図書資料から得た知見を枝分かれする樹木図に表現し、地区全体に属する行事には、

六部会の専門部（広報・文化・体育・福祉・生活・青少年）で推進するようにしている。

また、青年自身が汗して青年会館を建設し、宮沢県知事のご来臨を得て青年会を結成したこと、町の体育大会に優勝し、地区の意気を示したこと、小学校に体育館ができ、老人会が大広間で懇親会を開いたこと、史跡巡り「歩け歩け運動」等々。

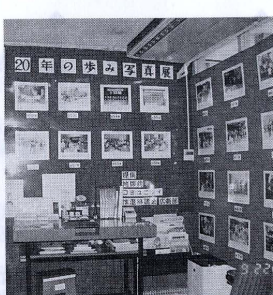
この二十年間に注がれた各部員や地区の方々の努力が、一枚一枚の写真の中に今日の地御前が築かれて来たのだと、歴史と伝統の尊さを思わずにはいられない。まさに、ローマは一日にしてならずである。

耕して天に至る貧しさ、島方にも似た内陸部では珍しい地御前の段々畑はそれを物語り、海外雄飛の村は、こうしたことから生まれたことは、同時に展示したふるさとの写真からもうかがえる。

今回の展示を企画実施するに当たっては、創刊からの「じごぜんひろば」紙、各年次毎の「総会資料」、県発行の「実践事例集」等の資料と、「行事計画のためのアルバム」「指定三カ年の実践写真

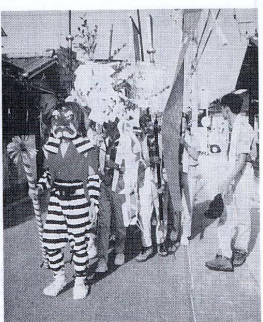
集」「郷土の歴史の散歩道アルバム」「団体受賞記念アルバム」及び昭和五十二年以来の「各年次綴込み写真帳」約六十冊に基づいている。

こうした資料の展示を行うには、個人技では多大の時間を要して時期を失したり、よりよいアイデアなど生まれるものではない。部活動の運営もまた同じである。今回は、広報部の皆さん方の協力で実現されたことである。



地御前局における写真展

ふるさとの写真集は、約二十年前に作られた展示品である。今回、市教委社会教育課のご好意によって、みなさんに展観できたことに感謝の念を捧げたいと思います。当時、古い写真の収集に当たっては、地御前においては、「七人委員会」を設けてこれに当たった。従って、その収集量は他地区に比



はあれでよいものだろうか。とハナは、御神興行列のおりには肅々と先導役を努めるが、それが終わると活発な動きで華やいた祭りの気分を盛り上げた。昔は子供達を引き連れて、主に娘さんを追っかけ回した一面楽しい行事であった。それが近年では、子供を相手に暴れるような風潮となり、正規の装束（お祓いを受けた証の頭に御幣、赤の袴に黒白の袴）をつけたハナに対して、不正規のハナ（剣道着などに般若やカッパの面の無秩序乱暴な青少年グループ）が多く出るようになった。

コ推協（青少年部）やPTAでは、子供達の事故防止のために監視活動を行っているが、地御前神社からの正規のハナを、郷土文化の伝統として、皆さんの協力を得て守り続けたいと願っている。

して格段に多く、これも人の力である。前会長のお話にある「お互いに知らなければ助けあえない」とは至言である。

今回の展示に参加しての思いを記したものです。

ナイトウォーキング

相良 宏三

コ推協体育部では、今年から健康保持がみんなの生活習慣になるきっかけ作りのため、毎月一回のナイトウォーキングを企画しました。

これは、一時間ぐらいを速足で歩くだけのものです。

ヒトのからだは、使用することによって、その機能が向上します。歩くことに要するエネルギーは、酸素を鼻や口から肺にとり、血液に溶かして全身に送り、それを分解して発生させます。これが有酸素（エアロビクス）運動です。

肺や心臓を無理なく十分に使用して心肺機能を高めることは、健康保持に大切なことで、ウォーキングは最も手軽で簡単な運動だと思っています。

六月を最初に、四十人の登録会

自然はいいもの

旭町 出羽真理子

私の家には大がいます。猫もいます。鳥も、そして極めつけに鯉まで泳いでいます。数からいうとヒトより多くのペット達に囲まれて毎日暮らしています。その中でも一番身近に感じるのは、やはり犬でしょうか？何故なら毎日、朝に晩に散歩にお付き合ひしているからです。

我が家の前から二三分で海岸の土手に出ます。そして潮が引いている時には砂浜へ降りて、ゆっくりと沖の方に歩いて行きます。目前に宮島の雄大な陸線を望みながら……。そして時々こう思います。私がこの土地に来て二十年経ったけれど、あの当時と変わってしまっただけ、この自然なのではなく、この地に住む私達の方なのだと……。海岸線を埋め立て、素足で歩くことすらためらわれる程、砂浜の環境は悪化しています。それでも毎日私の足は海岸へ向かいます。人間に傍若無人に荒らされ、痛めつけられつゝ、なお自然は私の心に安らぎと感動を日々与え続

稚児行列

―正行寺本堂修復記念―



▲平成10年5月10日

常会長さん

要町町内会長 佃 正隆

定年退職後、町内会長のお話があれ、引き受けるつもりでいました。適任の可否は別として、今まで多くの方々にお世話になりながら、お役に立てずにいた事を心苦しく思っていました。せめて恩返しの一つでも考えておきます。昔に比べれば大きな世の変わりようで、その役割が多様化・複雑化して来ている事ようです。他の町内会長の方々と、私の先任の方々に教えを乞いながら、任を果たしたいと考えています。

子供の頃、町内に常会長さんがおられ、尊敬と信頼が厚く、長期に私財をも提供されて、頑張っておられた記憶があります。あやかねない事ですが、今も会計通帳が「要町常会」の名義になっている事を知り、嬉しく思いました。

コ推協理事名簿

◇町内会長
 打海 清治 旭 町 中山 誠 扇 町
 尾上 隆雄 金剛寺東 田島 正樹 金剛寺西
 佃 正隆 要 町 吉本 武 浜之町
 若宮 武雄 砂島町 岡村 哲典 胡 町
 山崎 孝良 野坂宅 森 康彦 野坂町
 船村 孝良 野坂宅 原田 一行 緑ヶ丘
 三好 国昭 三景園 重富 欣治 海崎ヶ丘
 中村 英雄 丸子町 北野 茂 堀之町
 増村 春男 堀中町 朝田 馨 堀新町
 北野 正之 北之町 世田 正光 中之町
 松本 武 南 町 川本 誠 鹿之町
 戸川 春義 田屋町 真崎 敏史 S地御前

編集後記

六月から、公的資金の振込通知書が、年六回から一回になった。二十億円近い経費節減と思われる。広報部では予算不足をカバーするため広告掲載を議論したが、大きい店を対象にすると小商店をより圧迫するし、負担力もないということと先送りとなった。市民意識を高めるため、原稿の一般募集を進めることには全員一致した。しかし今回の投稿はゼロ、文芸作品まで広げるとよいが賛否両論。広報の活性化も簡単ではない。

福祉サービス商品化の中で

清鈴園長 蛭江紀雄

「継続は力なり」地御前地区コ推協二十年の歴史と活躍に敬意を表します。

橋本内閣六大改革の一つ社会保障制度改革の議論が始まり、戦後五十数年続いた日本の社会福祉制度が激変します。低所得、弱者救済を目的とした社会福祉から、全

ての国民を対象にした、日常生活の支援サービスへ変わります。いきおい、需要は拡大し、多額の財源を要します。如何にして使い易いサービスを効率的に提供していくか。介護保険は、これに先鞭をつけるものです。税金に代わって社会保険料で財源を確保します。

福祉サービスを商品化して企業にも参入させます。これからは福祉サービスは儲けの道具として売買されることになりました。あらゆる企業が福祉サービスを売り歩き出しました。早晩、規制緩和で外国資本も入ります。かつての豊田商法が横行しないことを祈ります。

▲管絃祭

ところで、私たちが求めている福祉は売買だけで賄えるものでしょうか。こうした時だからこそ金では得られない、利害を越えた地域での支え合いとそのネットワークの質こそが重要で

老人介護のご相談は、次の窓口

- 市役所保険課（新庁舎一階）
電話（代）20-10001
- 市社会福祉協議会（旧庁舎別館）
電話 20-10294
- 原清鈴園（特別養護老人ホーム）
原三六二二
- 電話 38-10011
- 廿日市高齢者ケアセンター
阿品四丁目五一三二
電話 36-12552
- ケアハウスインマヌエルホーム・デイサービスセンター
光の園
地御前二九九一三
電話 39-11841

なお、これらの施設では、デイサービスが、2施設では在宅介護の支援サービスもあります。このほかにも福祉施設があり、詳しくは市役所にお聞き下さい。

じとぜんひろば

No. 47

発行 H10.7.1

地御前地区
コミュニティ推進協議会

挨拶でふくらむ 人の和 地域の輪

No.47-H10

ふれ合いと通う

心で町づくり

地御前公民館長 荒木 尚子

四月より公民館勤務となり、地御前の皆様方と、再びふれ合う機会をいただきましたことを大変嬉しく思っております。

小学校在職中も、地域の方々から学校へのご懇情をいただき、また、地御前コ推協文化部・青少年部の活動を通して、「文化の伝承やふれ合いを大切にし、子ども達の健全育成」に精魂を傾けておられることに感謝し、感謝致しております。

この度、一年振りに地区運動会に参加させていただき、改めて、地区運動会のコミュニティづくりへ果たす役割の大きさを痛感しました。

全町内の皆様が一同に会し、肩を並べて終日競技や応援に打ち興じ、ふれ合い楽しんでおられる様子は、本当に和やかで美しいものです。関係の方々のご苦勞はさぞやと拝察致しますが、運動会でコミュニティの輪が広がっていくことは確かだと感じた次第です。

地域で育つ

「生きる力」

地御前小学校長 宇佐見妙子

昔のように畑仕事も海の仕事も家事も、子どもを必要としなくなり、自分で考え、判断し、行動する機会が少なくなった子どもたちです。人との関わり方にも戸惑いがみられます。

そこで、学校では地域を学習の場として、地域の方々の力をお借りして、さまざまな体験学習等を取り入れ、その中で子どもたちに自分で考え判断し行動する力（生きる力・生きる力）を育てる取り組みをしています。

そのため、いろいろな迷惑をおかしているところもあるようです。地域での子どもたちの様子

から、「感謝の心」や「人や物を大切にすること」など、今まで以上に子どもたちの心を育てる必要性を感じ、実践しているところです。今後とも、ご意見をいただきますようお願い致しますと共に、ご協力をお願い申し上げます。



▲校内音楽会（手話付合唱）

平成十年度の

コ推協事業計画

コ推協の総会は、五月二十九日に終了し、活動の推進力である六部の事業計画も承認されました。

◇広報部

広報紙「じごぜんひろば」を七月と一月に発行・ふるさと写真、習俗、民具などの展示（四月ほか）

◇文化部

ふれあい祭り（四月）・御陵衣祭（やぶさめ神事）・管絃祭前お洲掘行事・盆踊り・秋祭り・郷土歴史の散歩道・とんど

◇福祉部

ひとり暮らし、寝たきり高齢者への訪問お見舞い・昼食会（ささえ会）四回

◇体育部

第20回地区運動会（五月）・ナイトウォーキング（毎月）・秋のハイキング（十一月）・グランドゴルフ大会（三月）

◇生活部

男性料理教室（二回から三回に増加）・永福学級（六十才以上）との交流会二回

◇青少年部

管絃祭及び秋祭りの非行防止パトロール・地域行事の清掃奉仕・子ども育成研修会参加・情報交換会・学習会

新任青少年部長 塚迫たか子

なお、各部の実施日時については、地御前公民館だよりの紙面を借りてお知らせいたします。

管絃祭

―おかげんさん―

旧暦六月十七日の夜、厳島の管絃船が地御前の明神さん（地御前神社）を訪れる。平安朝からの祭事が我が地御前にあるのは有難いことと、「おかげんさん」「十七夜」といわれている。

当日、地御前神社前の浜で、「三つ団子」といわれる三亀甲剣花菱の紋様の描かれた明灯を乗せた地御前の御用船（水先案内船）に、地御前の昔から長「おさ」の役を勤める者が乗り込んで出発し、

阿品鱈浜の東の沖にまだ日没にならない前から、はるばる宮島から来ている、管絃祭の御座船に伺候し、案内の挨拶をする。

御座船にはそれぞれ明灯に灯をともし、故にこの地先は火立岩といわれる。

その昔、毛利元就が厳島合戦の際、この地に陣を張った所である。

地御前の案内船に誘導されて、御座船は、阿賀（呉）、江波（広島）の漕ぎ船に曳かれて、地御前神社前に進む。

二日前、人々の奉仕によって着船に便利ように浜を掘り下げた

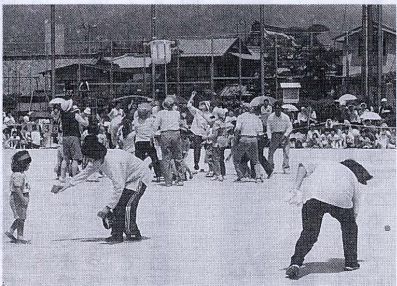
地区運動会

広報部

いい運動会だった。午前中は四区が最下位。はらはらどきどき面白く、子どもも大人も一生懸命、競技者も世話人も観客も笑顔・笑顔・笑顔。

反省会では、来年から子どもの人数を合わせ、どの区も有利にしない、綱引きの安全対策を考える、余韻のある閉会式にする、などが指摘された。

前日からの雨模様で、会場の決定に苦慮された実行委員会の方々



▲玉入れ

に敬意を表します。(S)

(写真提供・横山裕幸さん)

広電新駅

「JA広島病院前」

広報部

五月下旬に広島総合病院で、周

お洲掘の行事によって、御座船は岸近くまで接岸する。浜の盛り上がった砂場や国道周辺の堤防は、拝観しようとする人々で埋めつくされる。

祭事が終って、満月が海を照らす地御前沖に、管絃船は出て三回廻漕して、水先案内船に導かれて宮島長浜神社（宮島小学校付近）に向って進められる。祭事のあと長浜から一旦大元神社（宮島水族館付近）に向う。祭事をすませて最後に、厳島神社の大鳥居をくぐって神社本殿につく。

詳しい祭礼の様子などは、広島が生んだ女流作家、竹西寛子さんの「管絃祭」をお読みになると、とても印象に残ります。

また、「管絃祭」の写真は下平良山手町の大江達さんが本紙に掲載を快諾いただいたものです。これらは共に、水先案内に多年お勤めになった故北野正喜さんのご好意の賜です。

本年の管絃祭は八月八日です。この記事は「ふるさと」の写真」に関連して記したものです。（松本）

また、今市踏切からサティの北側を通る新駅までの通路が設けられ、線路側に屋根付一〇〇台収容の駐輪場が設置されます。

同病院は増床工事に取組み中で、平成十二年二月末には、一日当り一四〇〇人余（現在一六〇人）の外来患者を見込んでおり、駅に接続する利便性の高い病院として、利用者が増加する一方、車の混雑も緩和することでしょう。周辺の店舗も余恵を受けられると思われ、地域への還元が望まれます。(N)

十年住んで思う事

松下 邦彦

私が地御前に広島市より移り住んで、十年が過ぎました。その間、地域の人達に混じって様々な行事に参加させて頂きました。

十年間を振り返って思う事は、地御前地域は古くからの慣習が残っていて、それを守ってきている反面、新しい事に対する取り組みには遅れている様に思われます。他の地域より移って来られる人達にとっては、少し物足りない所もあるのではないのでしょうか。

ここへ移って来て良かったと思われる様に思いますが、各地区がそれぞれに新しい事への取り組みを行っていたら、地御前全体をもっと活気ある地域にして欲しいと願っております。

備えあれば憂いなし

コ推協生活部長

若宮 直己

去る十二月八日、地御前公民館において、地御前郵便局を通じて、簡易保険の資金援助を受けて、介護と男性料理の両教室を開催した。

しました。参加者は、お手伝いの方々を含めて五十名に達し、当初から相談を受けて企画に携わった者として大変嬉しく、皆様のご協力のおかげとっております。

教室は、廿日市市在宅介護支援センターの小林和子先生を講師に、介護技術講習を、また管理栄養士の中島千鶴子先生を講師に、介護食などを作る料理講習を同時並行で実施し、最後に二教室の参加者が合流して会食する形となりました。

介護技術講習では、多くの介護用具を使用し、参加者自ら実技を行っての熱の入ったものとなり、料理講習では男性に限りませんが、かきなど郷土の食材を使って介護



食および両講習参加者のための食事五〇食余を作り上げることができました。

高齢化社会突入の二十一世紀目前の今、介護は私達みんなの共通の生活のテーマとなってきました。今すでに介護されている方は勿論、「備えあれば憂いなし」の諺のとおり、これからの方も大いに役立ちたいと思っております。

コ推協後期主な事業

(九月～三月)

◇広報部

「じとせんひろば(一月一日号)」の発行(年末)

◇文化部

郷土民謡伝承講座(毎月)

どんぐりクラブ(一月除く毎月)

地御前郷土歴史の散歩道(十一月)

とんど(一月十日)

◇福祉部

ささえ会(ひとり暮らし昼食会、十月、十二月、二月)

◇体育部

ナイトウォーキング(毎月)

秋のハイキング(十一月)

グラントゴルフ大会(三月二十)

◇生活部

男性料理教室(十月、二月五日)

男性料理教室・介護教室同時開催(かんば支援事業、十二月)

永福学級食事会(三月十六日)

◇青少年部

祭礼パトロール(十月)

研修会(PTA協賛、十二月)

学習会(PTA、民生児童委員、廿日市署、三月)

◇地御前公民館・地御前コ推協
新春懇談会(一月八日)

編集後記

今回は町内会特集号とした。和歌山カレール事件の影響は少なかつたようである。活字だけで読みにくいが、地域環境をみんなで向上させる手掛りとなれば幸いである。

卯年今年の抱負(希望)を企画したが、依頼する人の生まれ年が分らない。紙面を若返らせるよい機会だったが、今年十二歳の小学五年生はどうであらうか。原稿募集の必要性も実感された。

※前号誤記訂正

公的資金・公的年金

市政 一〇年

―山下市長まちづくり講座より―

これからのまちづくり

十一月十三日、地御前公民館「まちづくり講座」として、山下三郎市長から標題の講話がありました。その模様についての、地御前公民館だより12月号に譲り、お話のいくつかを紹介いたします。

◇広域行政 廿日市市の面積は47、大野町・宮島町・大竹市を併せて220、広島市740、三次市250、東広島市286各平方キロメートルで、広さから見ても住民の合意があれば、四市町の合併は十分に考えられる。ダイオキシンは目下12ナノグラム、平成十四年には5ナノグラムが必要。県下8



ブロックにまとめて処理できるか。屎尿処理、消防、火葬場も広域化の方向。

◇日本赤十字看護大学 大竹市と競合したが市に大学がなく、誘致に努力した。約五〇〇人の女性、四年制、平成十二年に開校する。若い人達が住んで活気は間違いなし。

◇新宮地区整備

〇m幅の道路が市の核となる。健康福祉センター建設や国や県の合同庁舎などの誘致に努めたい。防災公園には水道水の備蓄を考慮したい。市役所跡地は商工会議所、医師会館の建設が予定されている。

◇JR駅周辺整備

〇宮内串戸駅は一日一万人が乗り降りする。バスが入らず雨の日は送迎の車で大混雑する。道路整備を検討中。

◇国際交流

〇ニュージランドは人口三三〇万人に羊六千万頭の国である。八月に本市の中学生が姉妹都市マスタートン市でホームステイを行った。

◇学校教育の充実

〇地御前小学校の敷地は狭くて不便。用地を見込

んでいるので協力を願いたい。

◇福祉の充実

〇介護保険も始まり自治体も努力を要する。老人が喜んで住める町を目指したい。

◇むすび(四大問題)

〇ダイオキシン、宮島景観(マンション建設、広域火葬場建設、給食問題については、解決に努力しているところである。

文責：広報部

地御前かき

地御前漁業組合長

黒田 勝敏

新年明けましておめでとうございます。

私はこの度、地御前漁業協同組合代表理事組合長に就任致しました。

昨年のかきは、赤潮や水温の上昇で酸素不足となり、大変な被害を受けたが、一月に入り海水が冷たくなると、かきの身もよくなってきた。

私共は皆様においしいかきを食べさせて頂きたい、日々頑張っております。現在では、「かきと言えば地御前かき」とまで言われるようになり、とても嬉しく思っておりますが、これからも精一杯、地御前かきのために頑張っていく所存でございます。

じとせんひろば

No. 48

発行 H11.1.1

地御前地区
コミュニティ推進協議会



新しい年を迎えて皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします

町内会長の選出は「誰が？」

―運営は概して順調―町内会アンケート結果―

当コ推協組織の中心を占める町内会長は、町内会の良好な運営によって町内の居住環境が少しでも向上することを願っております。

このために、町内会相互の情報交換することが大切であると考え、当広報部では、「町内会の運営に関するアンケート」を昨年九月に各町内会長に依頼しました。

皆様の協力によって、地御前地区二十七町内会（本紙No.47コ推協理事名簿参照）中、二十五の町内会長から回答をいただきました。

内容のうち数値化したものについては速報としてお知らせ済みなので、具体的事項につき考察を加えて発表させていただきます。

◇ ◇ ◇
最初の質問の組織について、一番目立った項目は、役員の選出方法で、持ち回り選出9、選挙6、推薦5、選出委員2、そして会長だけを選出して、あとは話し合いによる、その他、と様々であり、町内会長などの役員のなり手がなく、その選出に苦勞しているありさまが読み取れる。任期は二年、班長（組長）は輪番制によるがほ

◇ ◇ ◇
次に町内会費の金額は、月当たり換算五〇〇円からなすまで、平均二三〇円である。集金は毎月が8、半年毎7、一年分4、その他、町内会未加入者ありは、若い層のひとり住まい等にみられ、8町内会を数える。うち関与なし7、何らかの対応3。問題としては回覧は止めているが、防犯灯費負担、町内清掃、ごみ置き場の管理等であろう。少なくとも縁があって地域に住むのだから、僅かの会費ぐらい負担してもよいのではないか。

慶弔規定については6割近くが定めており、対象としては、死亡時が8割以上、以下、結婚・出産・入院が4割、餞別・敬老・災害・その他表彰・入学・成人・スポーツ・什器共用等さまざまである。また金額も死亡時最高一万円、五千円が5町内会、二―三千円とつ

とんどである。

会則（規約）は、ないところが4割弱もあり、以前から住民の入れ替わりが少ない所であろう。定めているのは5割強、添付されてきたものもあり、参考にされるとよい。

町内会未加入者ありは、若い層のひとり住まい等にみられ、8町内会を数える。うち関与なし7、何らかの対応3。問題としては回覧は止めているが、防犯灯費負担、町内清掃、ごみ置き場の管理等であろう。少なくとも縁があって地域に住むのだから、僅かの会費ぐらい負担してもよいのではないか。

慶弔規定については6割近くが定めており、対象としては、死亡時が8割以上、以下、結婚・出産・入院が4割、餞別・敬老・災害・その他表彰・入学・成人・スポーツ・什器共用等さまざまである。また金額も死亡時最高一万円、五千円が5町内会、二―三千円とつ

◇ ◇ ◇
町内会未加入者ありは、若い層のひとり住まい等にみられ、8町内会を数える。うち関与なし7、何らかの対応3。問題としては回覧は止めているが、防犯灯費負担、町内清掃、ごみ置き場の管理等であろう。少なくとも縁があって地域に住むのだから、僅かの会費ぐらい負担してもよいのではないか。

づく。

二番目の質問の事業（行事）については、総会は会の最高行事として9割以上が行っている。懇親会を兼ねたり、二年に一回のところもある。町内清掃（年一回、二回、三回、六回、平均約二回）も9割近い。次いで祭りの準備5割、運動会その他敬老会、消防訓練、盆踊り、新年会、入学・成人祝、とんど、広報紙、海の清掃、花見等である。葬儀のお手伝いは、班または組単位で行う。

募金（健康感謝・赤十字・赤い羽根）への応募は、町内会一括が6割近く、集金の手間の省力化の傾向である。個別6、一部個別5。三番目のゴミの問題では、各町内会がそれぞれ苦勞して置場を確保したり、後始末をしたりする様子が読み取れた。例えば収集日を間違えたゴミをどう処理するかという問いに対して、張り紙添付7、持ち帰り指示（判明）5、保管（点検）5、注意喚起4、当番・衛生委員処理4、その他ゴミ記名制度、管理人一任等である。以前のニュースに、時間外れのゴミの袋を点検したところ、盗品のハンドバッグが見つかった御用になった話があり、時には袋を開けて点検するのもやむを得ないことかも

町内会行事として特別な事はしていないが、野坂三町内合同による一斉清掃、年四回の団地内公用地の清掃等をコミュニケーションの場と位置付けている。最大のイベントは地区運動会であるが、当団地も多分に洩れず少子高齢化が進み、競技によっては該当者不足の種目もあり、成績はビリかブービーが定位置と足を引っ張っている様だ。それでも呼び掛けには協力的で、「おらにゃ〜出てもいいよ」と還暦過ぎの御夫人方からの声も聞け、嬉しい限りである。

今後とも隣り近所が本音で話し合え、より明るく、協調性のあるまちづくり目指して、皆で力を出し合って行きたい。

町内会行事として特別な事はしていないが、野坂三町内合同による一斉清掃、年四回の団地内公用地の清掃等をコミュニケーションの場と位置付けている。最大のイベントは地区運動会であるが、当団地も多分に洩れず少子高齢化が進み、競技によっては該当者不足の種目もあり、成績はビリかブービーが定位置と足を引っ張っている様だ。それでも呼び掛けには協力的で、「おらにゃ〜出てもいいよ」と還暦過ぎの御夫人方からの声も聞け、嬉しい限りである。

今後とも隣り近所が本音で話し合え、より明るく、協調性のあるまちづくり目指して、皆で力を出し合って行きたい。

町内会行事として特別な事はしていないが、野坂三町内合同による一斉清掃、年四回の団地内公用地の清掃等をコミュニケーションの場と位置付けている。最大のイベントは地区運動会であるが、当団地も多分に洩れず少子高齢化が進み、競技によっては該当者不足の種目もあり、成績はビリかブービーが定位置と足を引っ張っている様だ。それでも呼び掛けには協力的で、「おらにゃ〜出てもいいよ」と還暦過ぎの御夫人方からの声も聞け、嬉しい限りである。

知れない。

なお、ゴミ置場の管理は、9割がゴミ当番制を行っており、置場は施設するところもある。また、露天置場なしは8町内会、あるところは当日出しに努める、覆いをする、近くの人が監視、収集後清掃等、野良猫にえさを与えて荒らされないようにするは、本当に効果があるのだろうか。

四番目の質問と回答は次の通り。
◇貴町内会が自慢してもよい点
●町内清掃を2ヵ月に1回、11年間続けていること。
●特に問題が起らないこと。
●町内清掃時、多数の人（親子老若）が参加されること。
●協同性あり、親睦良好、好環境。
●以前に地主の協力で、町内ふれあいのできる公園ができたこと。
●盆踊りを行っていること。
●葬儀時の飾り付けに、男女の役割分担がよくできていること。
●何事も一致協力してやっていること。

◇貴町内会が悩んでいる問題
●留守の多い家で回収が止まること。
●アパートの住民（一人住まいが多い）との連絡がないこと。
●役員（会長、副会長、衛生推進委員、婦人部）を決めるとき、他地区の人と見られること。
●道路の側溝蓋が時々紛失すること（子どもいたずら）
●町内会に相談なく公園に通じ抜けの通路ができて、使うのに不自由すること

町内会に相談なく公園に通じ抜けの通路ができて、使うのに不自由すること

町内会に相談なく公園に通じ抜けの通路ができて、使うのに不自由すること

原眺楽座

説経源氏節人形芝居

地御前小学校・同校PTAのお世話により、十月十六日に同校体育館で、全校生徒及び町内の人達が見させていただきました。

三味線と新内と言われる語り口に、小学生は大丈夫かと思われましたが、静かにそして人形が動きまわるにつれて、その都度歓声があがりました。

「土手八丁五人斬りの段」悪人が斬られて舞台の袖に倒れかかると、頭がポカッと割れ、赤くて丸い切り口がぶら下がったときは一瞬壊れたのかと思いました。迫真というかユーモアもあって目が離せません。

「はったんがえし」という三味線に合わせて、御殿の色彩やかなふすまが、パッパッと七・八回も変わるのにも拍手喝采でした。

人形遣いの方々が、小学生の活発な質問に、人形の操り方まで見せておりました。民俗芸能を百年以上も伝承された、原の皆様に敬意を表します。



（広報部）

我が町内会を語る

堀新町町内会長

朝田 馨

私は会長職を六年間勤めた前任の柳川さんを引き継いで、約四年になります。その頃から何れは町内会のお手伝いをして少しでも社会に恩返しを考えていました。

町内会長の仕事は、市の行政事務を町内の末端にまで伝え、各世帯の声を集めて市の方へも伝えるということになります。その為に、しばしば会議とか打ち合わせがあり、市の行政が市民生活に対して実に細かに面倒を見ていることが分かります。即ち「生老病死」に対し、事務的にも実際面もよくタッチしてくれております。

当町内には現在五十七世帯があり、三班に分れていますが、回覧板の回覧、公報紙等の配布には班

我がまち

緑ヶ丘町内会長

原田 一行

西広島バイパス野坂中学校南口

平成十一年度 コ推協事業計画

総会は五月二十八日に開催され、会則の一部改正、役員選出及び各部事業計画も承認されました。

◇広報部

「じこぜんひろば」の発行（七月と一月の二回）
写真等の展示会

◇文化部

御陵衣祭・管絃祭・前洲掘り・秋祭りの協賛
盆踊り・とんど祭りの実施
ふれあい祭り・地域の歴史散歩
どんぐりクラブ（大人と子ども

田舎のぬくもり

三上法保

私は各地で催されるイベントにちよく顔を出す。
その地が田舎の奥深いところほど好きだ。その時に即売される同じ農産物は、丹精込めて作られた鮮度がある。そして、うどんや炊き込みご飯などの食べるものも、調味料で化かされていない田舎の精一杯のおもてなしの味がする。
大自然の中にどっぷりとつかり、お腹の気分は上々。心が洗われる

の集い

◇福祉部

一人暮らし高齢者の訪問・見舞い
一人暮らし高齢者の昼食会（ささえ会）四回（一回は南民協協賛）

◇体育部

ナイトウォーキング（毎月）
第二十一回地区運動会（五月十六日）
秋のハイキング（十月、尾道市）
軽スポーツ（三月）
青少年部
子ども会育成指導者研修会参加
他団体と情報交換・学習講演会

ようである。

殆どが年寄りばかりの山村で、おじいさん、おばあさんが、この時を待ちに待ったかのように甲斐甲斐しく立ち居振る舞う様子は嬉しく感じられ、その顔はまぶしくらいに生き生きとしている。
こんなことなら、これといった何もない奥深い山間地に、もう少ししなみを増やしてあげたい、ときりに思う。
時代の流れに消えうせたり流されないよう、田舎のぬくもりを日本の息づかいとして、私の心に留めておきたいと思っている。

町内落書き消し（初めての試み） ◇生活部

男性料理教室三回（塩分過多防止）
介護に関する講演会・介護教室（各十月、地御前郵便局と共催）



介護教室

コ推協新役員

（再任を除く）

◇副会長 打海由美子
◇理事（町内会長）
小笠原 勝（岡園）
中田 一郎（金剛寺西）
若宮 悟（胡町）
千崎 三（野坂住宅）
永末 治（三景園）
中谷 文彦（掘新町）
川本 明（南町）
◇理事（関係団体代表者）
飯田 公裕（地御前小学校PTA会長）
野村 洋一（野坂中学校PTA会長）
飯田 元隆（地御前保育園保護者クラブ会長）
◇理事（各部副部長）
横山 幸春（福祉）
川本 誠（生活）
小林 茂夫（体育）
戸川 春義（生活）

総合病院新館のご案内と 今後の工事計画

事務長 佐々木 厚志

平成九年五月に着工したJA広島総合病院の増改築工事も、昨年十月には新館八階病棟が完成し、その間、広電新駅もできました。地域の皆様には大変なご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。

新館八階病棟の概要について説明しますと、地下は給食部門やエネルギーセンター、一階は総合受付・会計窓口・薬局・売店、二階は内科や歯科等の診療科、三階は



ICU・CCUの集中治療室や中央手術室、四・八階は病室となっています。

病室は個室と四人室からなり、個室はバス・トイレ付であり、四人室もトイレを作る等、患者さんの療養環境を重視した病室となっています。

昨年の患者さんの利用状況は、一日平均で外来一、二〇〇人弱、入院で四二五人と、広島県西部の基幹病院としてその役割はますます重要となっています。

今後の工事予定としては、西側の三階建の改修工事が完成し、六月には外来診療科が一・二階に移転し、三階は手術室となります。移転した跡の平屋建外来棟は取り壊し、駐車場に利用する計画です。

また、旧八階建病棟の一・四階の外来及び内部工事も引き続き行い、当初計画通りに来年二月には全ての工事が完成する予定となっています。

なお、本年四月より病院長、副院長、事務長が交替し、新体制となりましたが、一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

編集後記

本紙は、面白い、役に立つ、ふれ合いがあるか、そして知識が得られるか、などを目指している。自治振興課は、コミュニティを一層支援して欲しいと思われ、皆さんが知りたいと思われる総合病院の近況は、事務長さんから。今年の卯年の地小新六年生、地域との交流も深め、将来の環境保全を担う原動力となろう。戦争をしない平和な国を残してやらねば。自由題三編、ほのぼのとした人間愛が感じられよう。

市の経済課による観光パンフレットの99年のイベントカレンダーに、御陵衣祭（六月十八日）と管絃祭（七月二十九日）が載っている。地御前郷土史家の渡邊さんから、ご高齢にもかかわらず貴重なお話を頂いた。

今年の地区運動会は久しぶりに二区が優勝、常勝四区との差はわずか五分、最終に数えた玉入れで逆転のスリルに富んだもの、躍り上がつて喜び子どもたちが印象的でした。三位は三区、四位は一区と、これも昨年と入れ替わった。

※前号記事訂正
とんど（一月十日）↓（一月十五日）

市役所

コミュニティ担当

自治振興課

広報はつかいち（四月一日）で、市役所の組織機構の一部変更の中に、新しいコミュニティの形成を図るため、市民部に「自治振興課」を設けたとありました。

早速、同課をおたずねし、次のようなコメントをいただきました。

平成十一年度から、生活環境課コミュニティ振興係が自治振興課になりました。市民の皆さんとともに地域づくりをすすめる「やさしいコミュニティ」を目標に、より一層の事業の充実と各種の取り組みを行いたいと思っておりますので、気軽にご意見等をお聞かせください。

また、町内会のこと、市役所のどこへ課に行ったら良いのか、と困られたときもぜひ、自治振興課にお寄りください。お話を伺い、担当課にご案内します。

主な取扱事務Ⅱ町内会・コミュニティ・防犯灯・集会所等
なお、環境衛生・廃棄物対策・公衆衛生推進協議会等々は環境政策課の担当になります。

じこぜんひろば



No. 49
平成11(1999)年
7月1日発行
地御前地区
コミュニティ推進協議会

手を取り合って
よりよい地域の輪を育もう

No. 49 - H 1 1

春休みを間近にしたある日の午後、学校帰りの子どもたちに出会いました。お互いに挨拶を交わした後の会話です。

「あー疲れた、忙しかった」「エッどうしたの」「明日ね、公民館で環境サミットin地御前が開かれるんよ。その準備をしようってんよ」「何それ」

地小5年生の 環境サミットに参加して

コ推協青少年部長 塚迫たか子

「五年生みんな環境について調べたことや勉強したことを地域の人たちの前で発表して、その後、来てもらった大人のひとたちとグループに分かれて話しあうんよ。それでね、調べたことを紙に書いて貼ったり、イスを並べたり自分たちでしたんよ」

疲れたという言葉と裏腹に、生き生きと自信たっぷりに教えてくれたのでした。翌日、公民館に行ったら驚きました。パネルには洗剤から家庭排水・海・カキに繋がること、家庭ゴミからリサイクル、大気汚染のこと等、たくさん展示してあります。子どもたちの発表では、学校で学んだことに加えて、それ



はつかいち環境サミットin地御前

その家庭で家族と話したり、地域に出かけて教えてもらったことを伝えてくれました。

私自身、地御前に移り住んで十数年、住み良い所だと思っていましたが、子どもたちと話合ってみて改めて、地御前の環境を守るのは地域に住む私たち一人一人が意識し努力する必要があると感じました。

ふれあいの花

太 治 シゲ子

私が近くの公園で水やりをしていると、「おばちゃんお花がきれいね」と、どこからともなく少年

たちが明るく声をかけてくる。優しい両親の愛に抱かれ、思いやりの心を育まれた少年たちだろうと、家庭の暖かさを感じる。

朝夕に木々草花との触れ合いを深めると、大自然の厳しい摂理に従う一木一草の生命が、生き生きと土と共に私に語りかけてくる。

桜花咲き乱れ花々の微笑むある日、鮮明な青いテントが公園の中心に張られ、大型バイクの若人の一夜の宿に早変わりした。さぞかし花の天国で安眠し、次の目的地

京まいいり

松野 洪野

雨に洗われた翌日の日差しの中で光る新緑はど美しいものはありません。どしゃ降りの中に参拝した本願寺でありましたが、どっぷりとはまって、一日中過しました。もう三十五年位前から年中行事として、正行寺、西向寺の両ヶ寺で、西大谷本願へ納骨及び西本願寺参拝念佛奉仕団を行っています。

御影堂は、この六月より十年かけて修復予定という。従ってこれからは阿弥陀堂が総御堂となるの

へと心弾ませたことであろう。

日々の生活の中にも、昼は大空の絵巻模様、夜は月星たちとの静かな語らいに、今日一日を感謝する。希望を胸に、お互いに思いやりのある優しい心が地域社会の触れ合いの場に花を咲かせるだろうと、静かにもの思う。

家庭に、地域に、社会に、国家に、そして世界に、手をつなぎ触れ合いを重ねて、平和な美しい営みが訪れることを信じたいと思います。

である。長い間お育て頂いた御影堂、閉鎖前に参拝できたことは感無量でした。豊や広縁、欄干など雑巾がけしながら、御縁があった亡き人たちが共に過したような気がしました。また、国宝鴻ノ間での抹茶接待を受け、そして飛雲閣の見学など、身も心も洗われ光に包まれての一日でした。

私のゆとりのない心のごみを洗い流してもらい、若葉の新緑を身にも心にもいただいた念佛奉仕団でありました。元気でまた来年、皆さんと一緒に参拝できるように念じ、回を重ねて十年後の修復なった御影堂、さぞ立派であろうと楽しみにするばかりであります。

管絃祭

馬とばし

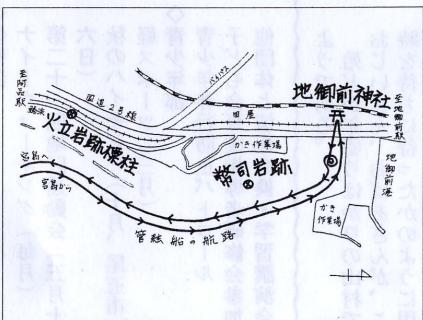
―宮島つながりの祭事から―

地御前の二大祭事について、郷土史家の渡邊通様にお伺いしました。

管絃祭

始まりは、平清盛が平家の隆盛を誇らんがための着想が発端です。厳島神社に納経するなどしていた清盛は、海上の祭事を思いつきます。京都の貴族達が、宮廷の池で管絃の舟遊びをすることをヒントに、内宮（厳島神社）と外宮（地御前神社）の間の海上を壮大な舞台とし、音楽を奏でる船を航行させるという一大イベントにしたわけですね。これが世に注目され、平家の名声を広めたという清盛の思いは果たされたわけですね。

祭りは、事前の「祭場整備」とも言うべき「お洲掘り」から始まります。地御前側では、祭りの二日前の正午、干潮時に地御前神社の砂浜を左右に掘り分け、落木を立て、宮島から来る管絃船の着岸を円滑にするために行います。洲掘りの地ならしのため、美しく飾っ



今では漁業組合の手で、機械による整地作業が行われています。

当日（陰暦の七月十七日）、祭りは午後四時頃、厳島神社から始まり、管絃船は地御前神社へと向かいます。夕刻までに先ず鯖浜（今の阿品一丁目）の火立岩（図

参照）付近に到着し、食事の後、上げ潮と同時に出航し、暗礁の幣司岩付近で船上に燈を灯します。やがて地御前神社の前にも潮が満つる頃、管絃船は着岸します。神社前で奏楽が行われ、再び帰路に向かいます。管絃船は沖合約五十メートルまで出る二三回転し、曳き舟により宮島へ。この頃、満月に近い月は遠方の江田島の山の上に輝き、見る者にとっては海上からの涼風を受けながら爽快な気分となります。また、神社境内には祭り当日、露店が所狭しと立ち並び、集まった人々で身動きできないほどの混雑となり賑わいます。

馬とばし（御陵衣祭）



壇ノ浦で平家滅亡後、一一八五年、周防の国司をしたことのある藤原親実が、厳島の主席神官という地位に初代として任命されていますが、鎌倉に要職を持ち、厳島

には赴任していませんでした。しかし、四代目の神官、金剛寺入導と号する親範は、現地である厳島にいたことは史料から明らかです。この親範こそが、走る馬上から矢の的を射る、やぶさめを意識して祭事としたことが、馬とばしの起りです。厳島には、この祭事をする適地がなかったため、親範は外宮の地御前神社の海辺で、地元の守護地頭の人馬を用いて行ったようです。

騎手は江戸時代では武士が、明治から大正期は騎兵隊経験者がなり、先ず神社前で弓を発射し、地御前神社の西南の田屋から町中を経て浜の町まで疾走しました。

この祭事は、第二次大戦中は中止となりましたが、戦後は復活しました。今、馬は山口県から借用し、騎手は地元の篤志家が勤めております。

動かないように、その身体の両側を押さえられた馬にまたがる騎手は、天地四方に矢を放ちます。その後、馬の口縄を持って町中を歩行しているのが、今の馬とばしの姿になりました。

（記述の中で中世史の学術経験者からは、異論のある部分もあることを御承知おき下さい。）

文責・谷野純一郎